

給食の調理員に感謝



「給食」。高校生になつてすっかり聞かなくなつた言葉だ。だからこそ、この記事に心ひかれたのかもしれない。4限目の授業終了間際に聞こえるワゴンの音。廊下から食欲をそそる匂い。おなかの鳴る音に、友達との楽しい会話。「給食」という一つの単語だけで、さまざま思い出が浮かぶ。特に、小学校は小浜市と

揺らぐ小浜の学校給食
県内唯一全小中学校で自校式

教年欠員続く「調理員」
小浜市立小中学校の給食調理員は、教員不足の影響で、今年度も教員が調理業務に兼任するケースが続いている。市教委は、調理業務の効率化を図るため、自校式給食の導入を進めている。

市人材確保探る
市教委は、調理業務の効率化を図るため、自校式給食の導入を進めている。また、調理業務の効率化を図るため、自校式給食の導入を進めている。

小浜モデル、構築を
小浜市立小中学校の給食調理員は、教員不足の影響で、今年度も教員が調理業務に兼任するケースが続いている。市教委は、調理業務の効率化を図るため、自校式給食の導入を進めている。

やもうもえ
矢毛 萌さん(敦賀高1年)

同じように自校式で、できたての温かみのある給食を食べさせてもらった。この記事を読んで、本当に少ない人数で手間暇かけて作られていたということにとても驚いた。当時は全く気づかなかつた。改めて、まごころを込めて、いろいろなことに気を使ってくださっていた調理員さんに感謝の気持ちが増えた。毎日おいしい給食を食べることができたのを幸せに思う。ぜひ、これからの子どもたちにも味わってほしい。そのためには調理員さんの待遇改善や就業時間の調整などが大切だ。そうすることで、食育活動も熱く盛り上がっていくに違いない。

マイトップニュース